

第13回研究会を9月25日(金)に
米子市立図書館で行いました。

4月に予定していたのですが、コロナ自粛のために延期していたものです。

午後1時から天神町碧川家跡地と碧川企救男の兄 熊雄の妻ナオノの実家 西村家の菩提寺を視察。碧川企救男の父真澄は明治23年米子で初めて一家揃って受洗し、二番目に受洗したのが、ナオノの父西村佐司衛であった。



↑ 菩提寺の瑞泉寺 門前にて

← 碧川家跡地、一列のレンガは草に覆われている

その後図書館研修室で研究会をもち、「織田正三氏と碧川家の付き合い」のテーマについて、資料を基に学んだ。

鳥取大震災時は朝日新聞鳥取支局員、その後

日本海新聞倉吉支局長、戦後は山陰日日新聞報

道部長など新聞記者として活躍した織田正三

氏は大正3年生まれ、昭和37年1月に亡くなっ

た碧川かたについて、昭和38年2月、6回の連

載で日本海新聞に思い出を書いている。(文中

の鷺見よし子は鷺尾よし子が正しい)その年の

12月14日には急性尿毒症で他界された。享年

49歳。山陰放送社長の織田収氏が実兄であった

ことは米子では知られている。

碧川企救男と結婚し

たかたと東町(?)に

生まれた織田正三氏と

はきっかけは不明だが、

親しく交流があったら

しく、終戦の年昭和20

年5月〜6月のかたの疎開日記に、そのこ

とが書かれている。

今は亡き米子市のかた所縁ゆかりの方々のこと



研究会の様子

を学んだ研究会でした。

研究会後に寄せられた疑問

碧川家の跡地を案内されましたが、裁判所の官舎としては異常な狭さといわざるを得ないのではないのでしょうか。

また、西村家と碧川家とは、洗礼後の信者としての交流がきっかけとなり、姻戚関係を結んだのでしょうか、裁判所の官吏はいわば「流れ者」であり、地元の西村家のことが気になります。

加えて、米子の織田正三とかたとが終戦直前の混乱期に手紙のやりとりをするほどの懇意は何なのでしょう。単なる知人とは思われません。

織田、西村、碧川をつなぐものが何であったか知りたくまりました。

たつの市 志水豊章

たつとの交流コーナー

たつの市「かたの会」はホームページを開設されました。「碧川かたを朝ドラの主人公にする会」と入力してください。最新ニュースは霞城館がリニューアルして、たつの市立として10月1日から平常通り開館するそうです。

研究会に参加して思い出したこと

織田正三さんと、私の父永井 準は米中で同じ29期、昭和38年に正三さんが亡くなられた後、私たちの仲人を織田 収（元山陰放送社長）・かめのご夫妻にお願いしました。そのご縁で、碧川かたを知ったのですが、記憶がはっきりしません。けれども織田家と碧川とのお付き合いは、正三さんを中心にしながら代々のひろがりをもったのではないかと思います。

現地を歩くと碧川家のあった天神町と橋がつなぐ尾高町との近さを実感します。尾高町の坂口家の坂口合名会社本店の昭和6年築のギリシャ・イオニア式を模した洋館。その隣が鳥取・島根の今井書店グループ創業の地。学制公布の明治五年に、長崎の鳴滝塾で蘭学を学んだ鳥取藩米子組の儒学医初代今井兼文が尾高町内に今井郁文堂を開

いたのが源です。昭和54年に文芸書専門店と市民サロンとなり、平成28年に店舗を取り壊し、市民サロンを移設しました。この間の市民サロンを、碧川家のどなたかが一度か二度お立ち寄りいただき、資料も何かいただいたはずなのに、その記憶が定かでなく、市民サロンの再三の移転の混乱の中で、資料も行方不明となつてしまい残念です。碧川家の資料から、どなたが、どういう目的で現地を訪ねられたのかを調べられないか。潮地ルミさんの資料などに期待しています。

また、当時のキリスト教の人々の受難から見えるものは多いはず。幸いに会員の志水さんからの研究資料として、「米子聖ニコ

碧川家跡地での永井さん(右)



ラス教会宣教125年記念誌」等4点がありました。通った良善幼稚園の思い出が蘇りました。皆様との貴重な出会いに感謝しています。

永井伸和

「今後の予定」

●生涯現役まつり&歴史大河ドラマ選考会

「場所」鳥取市とりぎん文化会館

「日時」10月31日(土) 10時～16時

12時前後に「碧川かた」の出番が5分ほどあり、経過報告をします。アミュー(3人のグループ)のフルート・ギター・「赤とんぼ」「霜の朝」の歌があり、午後からは今年の三つの候補作の発表と選考会があります。

●次回第14回研究会は湯梨浜です

「場所」湯梨浜中興寺の龍徳寺

「日時」令和2年11月26日(木)

午後1時00分～3時00分

「研究会」テーマ かたの紙芝居ほか

どなたでも参加できますので

マスク着用で、気軽においでください。